

## 宮城陸上競技場旧サブトラックの存続を求める件

宮城陸上競技場は、仙台市内唯一の公認施設であるとともに、昭和27年と平成13年の二度にわたり国民体育大会が開催された会場として県民はもとより広く全国の方々に親しまれてきました殿堂的なスポーツ施設でもあります。

さらに、現在も小学校体育大会陸上記録会、中学校総合体育大会等本市・県内の児童・生徒をはじめ、陸上競技や各種大会に年間15万人を超える人々が利用しております。

しかる現状のなか、宮城県においては、(株)楽天野球団の要望により今般、その室内練習場の建設に際し、フルキャストスタジアム宮城に隣接するテニスコートを宮城陸上競技場旧サブトラックに移設し、この旧サブトラックを全面的に廃止する方針を打ち出しました。

もし、サブトラック機能が失われることになれば、陸上競技場を利用する競技者は言うに及ばず大多数の市民・県民に甚大な影響が及ぶことは必然のことです。加えまして、陸上競技場本体の機能が大きく損なわれ、今後の各種陸上競技大会の実施にこのうえない支障が生じてきます。さらに、存続を求める署名活動が幅広く展開されております。

よって、宮城県におかれては、テニスコートの移設先の計画を変更し、宮城陸上競技場旧サブトラックを存続されるよう強く要望いたします。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成17年10月7日

宮城県知事  
宮城県議会議長 様

仙台市議会議長 柳橋邦彦